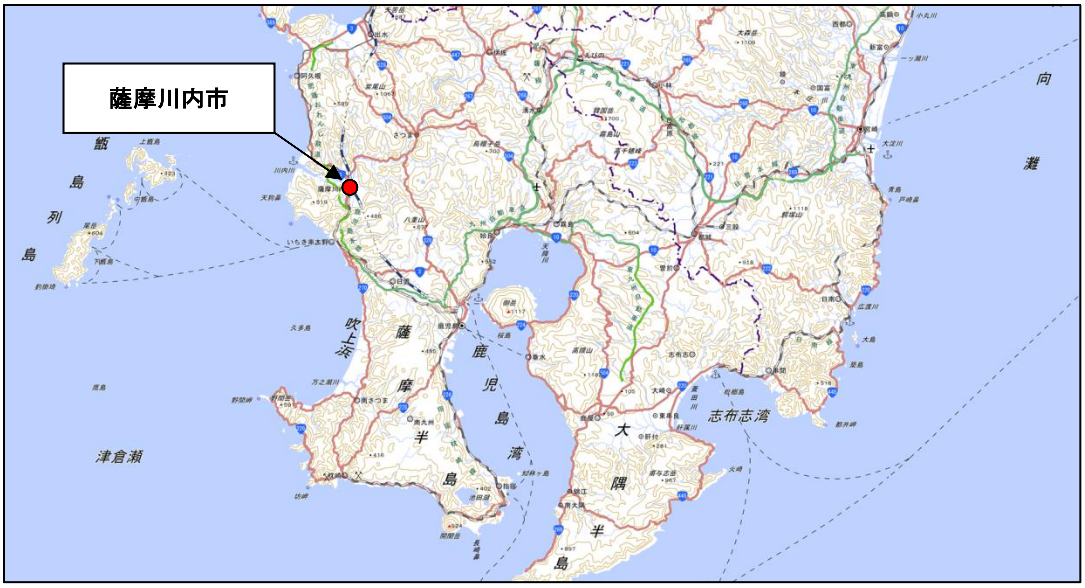
年号：1969 年

月日：6 月 26 日～7 月 11 日

災害名：梅雨前線〔平松豪雨崩壊〕の概要

鹿児島県薩摩川内市位置図

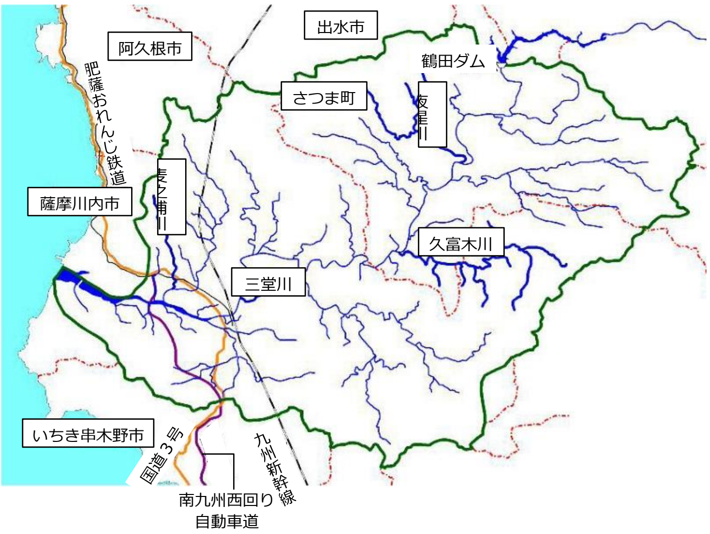


出典：国土地理院

【川内川の水害】

・川内川は、その源を熊本県球磨郡あさぎり町の白髪岳（標高 1,417m）に発し、羽月川、隈之城川等の支川を合わせ、川内平野を貫流し薩摩灘へ注ぐ、幹川流路延長 137 km、流域面積 1,600k ㎡の一級河川である。（うち、川内川下流圏域面積は 868k ㎡）

・川内川の史実に基づく一番古い洪水は、「続日本書記」及び「大日本史」に記載されている天平 18 年 10 月５日（西暦 746 年）の洪水であり、古くから人や家畜の死傷、家屋の埋没・流失といった惨事が幾度ともなく繰り返されてきた。



▲川内川下流圏域概要図

出典：鹿児島県 HP

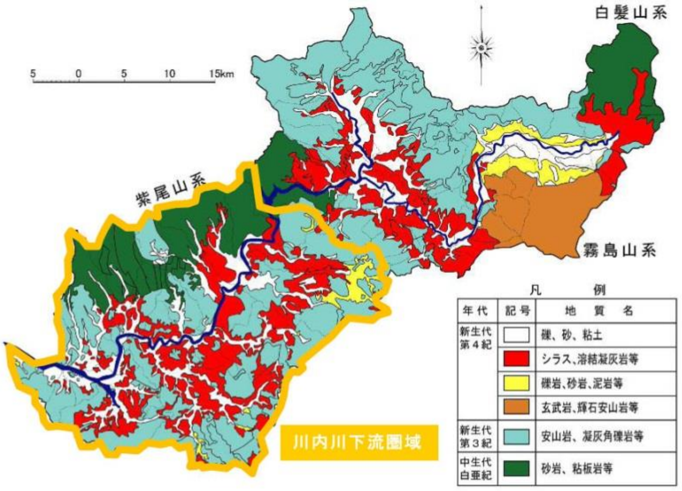
・洪水記録が整理されはじめた 1500 年代から現在に至るまで約 200 回を超える記録があり、平均で２年に１回程度、洪水が発生している。特に昭和 40 年代は大規模な水害が頻発した。

▼川内川流域の主な水害　　　　　　　出典：鹿児島県 HP

洪水発生年	原因	流域平均 12時間雨量	被害状況
昭和 2年 8月11日	豪雨 （台風性）	—	浸水家屋（約3,000戸） （川内町調査のみ）
昭和18年 9月19日	台風	—	家屋全半壊・流失（144戸） 浸水家屋（3,333戸）
昭和29年 8月18日	台風	133mm	死者（13名） 家屋全半壊・流失（8,578戸） 床上浸水（2,102戸）、床下浸水（10,236戸）
昭和32年 7月28日	梅雨	230mm	死者・行方不明者（6名） 家屋全半壊・流失（30戸） 床上浸水（1,433戸）、床下浸水（7,689戸）
昭和44年 6月30日	梅雨	152mm	死者・行方不明者（52名） 家屋全半壊・流失（283戸） 床上浸水（5,874戸）、床下浸水（7,448戸）
昭和46年 7年21日	梅雨	136mm	死者・行方不明者（12名） 家屋全半壊・流失（347戸） 床上浸水（戸3,583）、床下浸水（8,599戸）
昭和46年 8月 3日	台風	206mm	死者・行方不明者（48名） 家屋全半壊・流失（662戸） 床上浸水（3,091戸）、床下浸水（9,995戸）
昭和47年 6月18日	梅雨	239mm	死者・行方不明者（7名） 家屋全半壊・流失（357戸） 床上浸水（1,742戸）、床下浸水（3,460戸）
昭和47年 7月 6日	梅雨	136mm	死者・行方不明者（8名） 家屋全半壊・流失（472戸） 床上浸水（695戸）、床下浸水（1,399戸）
平成元年 7月27日	台風	223mm	家屋全半壊・流失（45戸） 床上浸水（171戸）、床下浸水（702戸）
平成 5年 8月 1日	豪雨	190mm	家屋全半壊（9戸） 床上浸水（170戸）、床下浸水（423戸）
平成 5年 8月 6日	豪雨	188mm	家屋全半壊（9戸） 床上浸水（102戸）、床下浸水（410戸）
平成 9年 9月16日	台風	190mm	家屋全壊・一部破損（3戸） 床上浸水（264戸）、床下浸水（223戸）
平成17年 9月 6日	台風	185mm	家屋一部損壊（12戸） 床上浸水（37戸）、床下浸水（144戸）
平成18年 7月22日	梅雨	295mm	死者・行方不明者（2名） 家屋全半壊・流失（32戸） 床上浸水（1,816戸）、床下浸水（499戸）

・川内川流域の地質をみると、約 33 万年前の加久藤カルデラ形成時噴出物の上に、約２万年前の姶良カルデラ形成時の入戸火砕流堆積物（シラス）が覆っている。

・シラスは、隙間が大きく透水性も高いため流水に弱く、豪雨時の被害が発生しやすいという特徴がある。



▲川内川流域地質図

出典：九州土木地質図（国土交通省　九州地方整備局）

【梅雨による昭和 44 年６月洪水の「大水害救援之塔」: 薩摩川内市神田町】

・昭和 44 年６月 28 日の夕方より７月７日にかけて梅雨前線が九州に停滞し、各地に記録的な大雨を降らせた。

・川内川流域では、特に下流地区の薩摩川内市で大きな被害を受けた。支川の春田川、平佐川等が氾濫し、薩摩川内市の中心部はほぼ全域にわたって浸水した。

・この梅雨前線により、鹿児島県内では死者・行方不明者 52 名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失 283 戸、床上浸水 5,874 戸、床下浸水 7,448 戸に達した。

▲市街地浸水状況（薩摩川内市）

出典：川内川の概要（国土交通省　九州地方整備局）

・昭和 44 年６月洪水時に全国から救護を受けたことに対する感謝を記念して建てられた「大水害救援之塔」が、薩摩川内市役所前の向田公園内にある。
・塔には浸水最高水位が約２ｍの高さに記されており、当時の市街地の浸水状況を伺うことができる。

▲大水害救援之塔の位置（薩摩川内市神田町）

▲薩摩川内市役所前の向田公園内にある「大水害救援之塔」

■大水害救援之塔の碑文

「大水害の塔建立記念碑

　この施設は昭和 44 年６月から７月にかけて本市を襲った集中豪雨による未曽有の大水害に際し全国各地から暖かい救援をうけたことに対し感謝の意を表わすため川内ライオンズクラブの寄付によって建立したものである

昭和 46 年５月 22 日　川内市」

鹿児島県鹿児島市位置図

出典：国土地理院

【殉職之碑：鹿児島市郡山町】

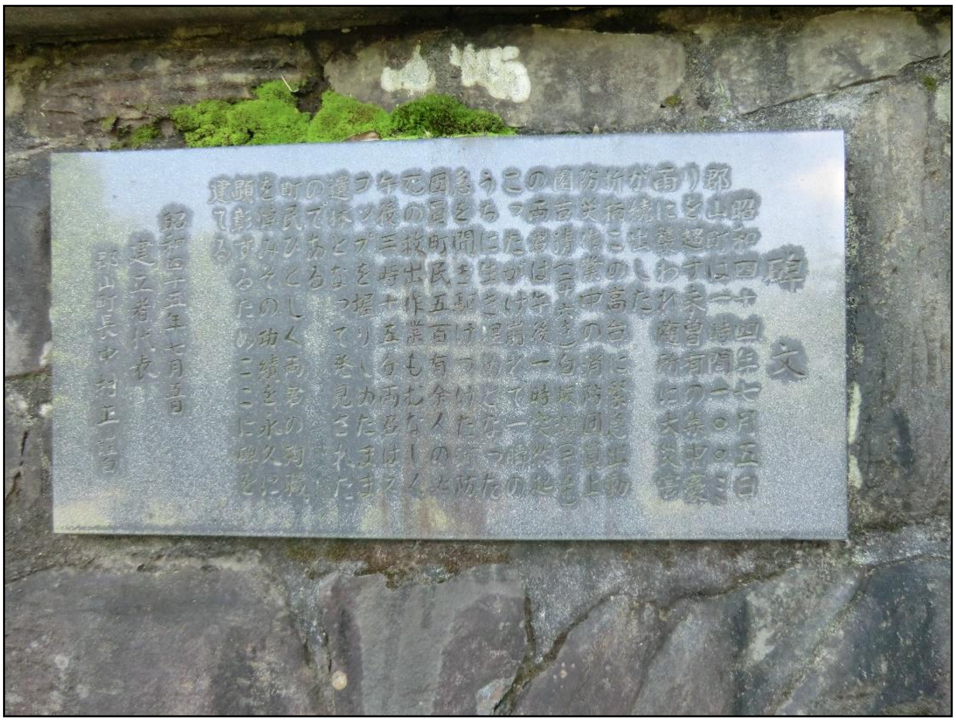
・「殉職之碑」は、鹿児島市郡山町の郡山早馬球技場近くに建っている。

・昭和 44 年（1969 年）７月５日、１時間に 100㎜を超える集中豪雨により各地で土砂崩れが発生し、甲突川が氾濫した。

・災害対応に当たっていた消防団員２名が崖崩れに巻き込まれ、生き埋めとなり殉職した。この石碑は、殉職した２名を顕彰するため建てられたものである。（参考文献：郡山郷土史（平成 18 年３月））

▲殉職之碑の位置（鹿児島市郡山町）

▲郡山早馬球技場近くの広場内にある「殉職之碑」



■**殉職之碑の碑文**

「昭和四十四年七月五日郡山町は一時間一〇〇ミリを越す未曾有の集中豪雨に襲われ随所に大災害が続出した

折柄この高台に緊急出動防災作業中の消防団員上園吉清（二十六才）白坂ふかし（二十五才）の両君は、午後一時突然起こったがけ崩れで一瞬のうちに生き埋めとなった

急を聞き駆けつけた消防団員町民五百有余人の必死の救出作業もむなしく午後三時十三分両君はスコップを握り締めたまま遺体となって発見されたのである

町民ひとしく両君の殉職を悼みその功績を永久に顕彰するためここに碑を建てる

昭和四十五年七月五日

建立者代表

郡山町長中村正　謹白」